

商家資料館（旧仁科家住宅）

この建物は、20世紀初頭に、地元産の絹の取引で富を成した、仁科源太郎という都留の有名な商人の住居兼、店だったものです。この地域の絹は、高品質で値段も手頃とあって、大変人気がありました。

1993年、都留市重要有形文化財に指定された後、「商家資料館」として公開されました。ここでは、絹の取引や、20世紀初頭の日常生活に関する展示品を100点以上見ることができます。正面玄関は、土間と、高床の畳の間が特徴で、かつては仁科の絹商店でした。この部屋には、昔この店で売られていた絹織物の見本がたくさんあります。玄関の奥は、1階と2階がある住居になっています。骨董品の家具や電化製品、凝った手彫りの木工品、障子、仏壇、その他、いろいろなものが展示されています。また、この家は、細部まで完璧な西洋風の応接間が特徴で、当時の外国文化の人気うかがえます。